カフェや会議室で語り合う

ネット通じて〝読書会〟

20～30代中心に広がる

インターネットの会員制サイトを通じて集まる読書会が20～30代を中心に広がっている。登録者が数千人に上る会も。平日朝や土日の自由な時間を使い、読んだ本についてカフェや会議室で語る目は真剣そのもの。何に引きつけられるのか。

▽知りたい

「苦しみを受け止めるとはどういうことか考えた」。「横で人が死んだら自分ならどう思うだろう」。土曜日の午後6時、東京・八重洲で始まった「東京アウトプット勉強会」。会議室は約100人の若者らでいっぱいだ。今夜の課題本は、ナチス・ドイツによるユダヤ人追害を描くアウシュビッツ収容所の体験記「夜と霧」（ビクトール・フランクル著）。胸に会員制サイト「ミクシィ」のハンドルネームを記したプレートを着け、7、8人のグループに分かれて感想を語り合った。

約2時間20分の会で席を立つ人はほとんどいない。議論は仕事の悩みや互いの死生観、人生観に及ぶことも。2度目の参加という東京都町田市の会社員宮本敬史さん(30)は「みんなが考えていることを知りたくて」と話す。ほかの勉強会にも顔を出している。

課題本を読んで議論する読書会「東京アウトプット勉強会」の参加者＝東京・八重洲

▽思わぬ効果

「若い人がこんなに集まるとは予想しなかった」と会を設立した山本多津也さん(45)＝名古屋市。3年前、本好きの友達4人と読書会を始め、連絡手段にミクシィを使うと、参加者が爆発的に増えた。山本さんが主催する東京、名古屋、京都などの会は登録者数が約3600人に上る。

山本さんは「同じ本を読む体験を通じ、人生観までぶつけ合える。そんな場を求めているのかも」と話す。真剣な議論を通じて交流が一気に深まり、思わぬ〝効果〟も。「参加者の中から3組が結婚しました」

▽第三の場

好きな本を持ち寄って紹介し合う会もある。読書朝食会「リーディングラボ」の発起人加藤健さん(26)は「出勤前の時間を有効活用し、知り合いを集めて本を紹介し合う場をつくりたかった」と話す。本の紹介は「初対面でも互いの性格がよく伝わり、プレゼン能力の向上にもなる」。

コミュニティー登録者数は約2千人。参加者は会社員を中心に主婦や起業家などさまざまだ。1回の募集は数十人でキャンセル待ちが出るほど。加藤さんは「刺激し合え、家庭や職場にない第三のコミュニティーになっている」と話している。

生活情報　くらし　社会

がん患者と家族調査

たばこ対策強化95%賛成

治療に「不安」など64%で首位

がんの患者や家族ら約1600人を対象にしたアンケートで、たばこ対策を強化することに95%が賛成していることが、民間シンクタンク「日本医療政策機構」（東京都千代田区）の調査で分かった。

たばこの値上げも83%が賛成。そのうち、現在一箱約300円を千円にするのが妥当と答えた人は28%、500円にするのが妥当と答えた人は24%に上った。

同機構は「患者団体のリーダーは以前からたばこの対策強化を求めているが、一般の患者や家族も高い割合で賛成していることが示された」としている。

およそ4人に1人が医療機関による診断や治療方針の決定過程、の身体的苦痛」が第2位で60%と多く、精神的な悩みを相談できる仕組みや痛みの緩和ケアの充実を求めていることが分かった。

パワハラ被害者？加害者？

試食で1万円！

全国果物

リンゴ物の訪問ブルが増に勧めら を大量に のに、領 絡先も分 ングオフ 国民生活 に購入し けている 2００ 43件だっ 既に14 る。購入 上の女性 方を中心 四国、中 っている 福島 は、1キ ンジの計 「1袋